

日本循環器研究 コンソーシアムの幕開け

企画：野村征太郎

(東京大学医学部附属病院
先端循環器医科学講座)



HEART's Selection

循環器疾患はがんと並んで世界中で多くの人の命を奪っており、その克服を目指した取り組みは喫緊の課題です。循環器疾患は多様かつ複雑な病態を呈することが知られていますが、近年の研究により、あらゆる循環器疾患は遺伝要因と環境要因の組み合わせによって発症することが明らかとなってきました。遺伝要因は個人のゲノムに記された情報であり、それを調べることによって生まれた時からその個人の循環器疾患へ罹患するリスクを知ることができます。環境要因(生活習慣・加齢・薬剤・妊娠/出産など)の影響は個人の組織(血液・心臓/血管)に刻み込まれるため、その組織を用いた網羅的なオミックス解析によって個人の疾患病態を把握することができます。すなわち、個人から得られるゲノム・オミックス情報は、その個人に最適な治療法を提供する精密医療を実現する上で極めて重要と言えます。

そのような流れから、国内外においてゲノム・オミックス情報に紐づいたコホート研究が急速に進んできました。循環器疾患の精密医療の構築のためには、循環器疾患に特化した形のゲノム・オミックスコホート研究を推進することが必要ですが、そのような研究を単一施設で実施するのは簡単ではありません。そこで2023年に「日本循環器研究コンソーシアム」が構築されました。このコンソーシアム研究によって全国各施設から効率的に患者登録を進めることで、日本全国における循環器疾患の特徴を理解することができるようになります。また、データ解析拠点の専門性を活かしてコストを抑えた上で最先端研究につなげることができ、かつそれらのデータを個人のレベルで統合的に解析することで精密医療に資する情報まで昇華させることができます。さらには、こういった研究で得られた成果を臨床現場(患者)に還元することも全国規模で可能になり、ゲノム医療・精密医療の推進に大きく貢献できます。

本稿では、日本循環器研究コンソーシアムのコンセプト、およびそこで目指している方向性を紹介します。雑誌「心臓」をご覧になっている皆さまにも是非研究にご参加いただき、循環器疾患の精密医療を一緒に創っていきましょう。